



名古屋記念病院

伊奈

研次

副院長

松浦三恵子

看護部部長

長尾

勝二

放射線部主査

宮外

陽子

MA部主任

木村

之斗

事務部

取材・文

読売新聞中部支社 前編集委員
医療コーディネーター

片岡 太

大腸がん早期発見・早期治療のため「がんから身を守る会」発足

大腸がんはがんの中でも増加傾向にあり、警戒を要するがんの一つだが、早期発見すれば5年生存率は約95%と高い。

このため、名古屋記念病院(名古屋市天白区平針、藤田民夫院長)は、

大腸がんの早期発見を目的とした「がんから身を守る会」を作り、早期発見に取り組んでいる。

そこで、伊奈研次副院長、松浦三恵子・看護部部長、長尾勝二・放射線部主査、宮外陽子・MA部主任、木村之斗さん・事務部に最新の大腸がんから身を守ることについて詳しく話を聞いた。

Q.がんから身を守る会を作った目的は。

伊奈副院長／皆さんご存じだと思いますが名古屋記念病院は、開院以来がんの診療に積極的に取り組み、民間の医療機関としては数多くの実績を誇り、高い評価を得ています。特に、患者さんや家族の方々から「名古屋記念病院はがんの診療を確実にしてくれるので安心だ」といった声をいただいています。

Q.確かに名古屋記念病院のがんの診療実績の高いことは衆知の事実と言っても過言ではないと思います。

伊奈副院長／がんの診療上、最も大切な

ことは早期発見・早期治療です。特に、日本人の食生活のパターンが西欧化しており、顕著に増加しているのが大腸がんです。しかし、大腸がんは、早期発見・早期治療すれば完全に治る確率の高いがんです。

それなのに当院に受診される患者さんは、進行がんが見つかるケースが多く、実に残念です。

Q.進行がんでの患者さんはどのくらいですか。

伊奈副院長／そうですね当院で診断される大腸がんのうちリンパ節転移がある進行がんは約60%を占めています。

Q.かなり高い割合ですね。

伊奈副院長／「もっと早く受診していれば早期の段階で大腸がんは見つかって、助かっていたのに」と医師として悔しい思いを幾度となく経験しています。

Q.がん専門医としての苦い経験を生かし、多くの大腸がん患者さんを救おうと「がんから身を守る会」が発足したわけですか。

伊奈副院長／名古屋記念病院はがん診療を大きな使命の一つにしています。その使命実現のために「がんを早期に一人でも多く見つけて貴い命を救うために名古屋記念病院としてどう取り組むべきか」とい